



「ラマダン」その3

「**ラマダーン・カリーム**」。これはラマダン中、あいさつ代わりに交わされる言葉です。「**カリーム**」とは、「**気前がいい**」という意味です。ラマダン中は、日没後にイフタールを食べますが、その料理を家族や友達、マンションの門番（バアブと言います）さんなどたくさんの人に振る舞います。これは、**イフタールを誰かにご馳走すれば、それだけ自分の罪が無くなる**と考えているからです。だから、ラマダン中は、いろんな人にご馳走を振る舞うので、「気前がいい」＝「カリーム」と言います。

その「カリーム」ですが、自分と関わりがある人だけに振る舞うわけではありません。志ある方（多くはお金持ちの人）が、道端などに椅子とテーブルを出して、**不特定多数の人にイフタールを振る舞う**ことがあります。例えば、私が住んでいるザマレック地区では、お店を営んでいる人や女優さんがイフタールを振る舞っています。このようなイフタールは、**誰でも食べることができ、そしてもちろん無料**です。このようなイフタールをいただく人は、貧しい人や自宅に戻ってイフタールを食べるには時間がかかる人が多いそうです。私は、イスラム教徒ではないのでラマダンの断食は行っていませんが、誰でも無料でいただけると聞いて、この路上のイフタールをいただいてきました。



ここは高架橋下の中央分離帯です（すぐ脇を車が通ってます）

今年のラマダンは、だいたい7時頃に日が沈むので、**7時過ぎからイフタールが始まります**。しかし、路上のイフタールをいただくには、遅くとも夕方6時30分には、テーブルをとって座っていなければなりません。すぐ、満席になってしまいます。座って7時を待っていると、飲み物や食事が運ば



デーツ

れてきます。「**デーツ**」という**乾燥させたなつめやしの実**が出てきます。この「デーツ」は、**イフタールで最初に食べるもの**とされています。食事は、**バターで炒めたごはん、サラダ、豆料理、アエシ（袋状のパン）**でした。これが、びっくりするほどおいしかったです。断食をしているイスラム教徒は、10分程度で食べてしまいます。私は、30分かけて、ゆっくりいただきました。食べ終わって周りのテーブルを見ると、そこには誰もいませんでした。



私がいただいたイフタールの食事